

There is hope beyond the White Rainbow



にしうらみどり 広島大学客員教授兼渉外戦略アドバイザー、Amadeus Inc.代表取締役
東京生まれ英国育ち。コンサル会社経営と次世代教育、グローバル人材育成を両立。地域開発、企業・団体のニーズに応えるアイデア提供、国立研究開発法人役員待遇など歴任。国内外を講演活動で飛び回っている。また、93年ご成婚CNN特別番組では中継司会をつとめ全世界に報道。日本政治総合研究所理事。英国王立音楽大学グローバル日本大使。趣味は料理。ワインのシュヴァリエ3冠王。

連載 第一話

「白虹のあなたはいつも吉」

西浦みどり

皆

さま、ご無沙汰いたしました。本誌連載「みどりの窓」シリーズでは、2009年に「大学の窓から」、2014年には「宇宙の窓から」を通じて読者の皆さまに発信、交流をさせていただき

ました。あれから10年、その間、弊社では地域開発部門の拡張、私生活では母の度重なる手術入院看病、のちの不眠不休での在宅介護、父の看病などと次から次へとのかかり、仕事と在宅介護の両立、大学での教鞭を執ることも怠らずに体調ギリギリで精一杯つとめてまいりました。お陰で今では医療や介護に関する知識と実務能力に自信ができました。栄養士の免許を持つ母の日常的指導のお陰で食に関する効果やバランスについては耳にタコだったことも有難や。半年差で両親を見送り、誠心誠意やりつくした清々しさと若干の自負を胸に、天下晴れてようやく自分を取り戻そうと心身共に立て直しを決行。世界中の親友宅を泊まり歩く外遊も束の間、到来した予期せぬコロナの数年間。その間もできるだけ、Carry on as usual、通

常と変らぬ態勢をできるだけ貫き、振り返ればあつという間に10年間が過ぎ去ってしまいました。皆さまの温かいご支持のお陰で、今では楽しく働き、健康で趣味も追求させていただけける日々感謝するこの頃です。
ところで、予めお断りさせていただきます。国内外共に増える一方の多岐に亘る依頼と活動のため、本連載は4話のみのお約束でスタートしております。万が一、メ切り間に合わずといった迷惑をかけたためにも。
さて、今回は、「みどりの窓」ではなく、気分一新なタイトルです。なぜ、このタイトル？ と首をかした読者も少なからずと想像します。その意図ですが、先ず、白虹びやくこうという言葉が好きです。釈迦に説法ですが、白虹とは吉にも不吉にも捉えることのできる言葉です。そう、自分自身の考え方次第ということです。書物によると、「より深い次元の理解に目覚めることを促し、内面の豊かさや精神性に富んだ旅路を進むための指針となるやも」、すなわち「成長と高次の

意識への覚醒を促すもの」ということです。戦国時代においては、白虹が出ること自体、珍しかったため、劣勢だった合戦も好転する兆しと捉える将軍もいれば、その逆に恐れる武将もおり、兵乱、反乱が起きる予兆ではと思いい切りネガティブに捉える者もいたそうです。私は、いつ何時でも、何事においてもポジティブに捉える才能？ があります（笑）。
心はいつも一点の曇りもなく晴れて明るいのです。いかなる目に遭っても、天は私を見放さない、といわず勝つ、天は私を見放さない、といった強い信念もあります。まさに、積善の家に余慶あり、積悪の家に余殃あり、といったところです。己を信じて誠を尽せば道は拓けるとの信念を捨てないのです。ネガティブに捉えて恐れ戦略を見誤るリーダーは滅びる選択を自ら選んでいるとしか思えません。ただ、大本営のように、根拠のない自信のみを頼りに突き進むのは避けたいところです。日本、そして皆さまの今後に輝く光が指しますことを願うの埃せ。さあ、次号では…。



にしうらみどり 広島大学客員教授兼渉外戦略アドバイザー、Amadeus Inc.代表取締役
東京生まれ英国育ち。コンサル会社経営と次世代教育、グローバル人材育成を両立。地域開発、企業・団体のニーズに応えるアイデア提供、国立研究開発法人役員待遇など歴任。国内外を講演活動で飛び回っている。また、93年ご成婚CNN特別番組では中継司会をつとめ全世界に報道。日本政治総合研究所理事。英国王立音楽大学グローバル日本大使。趣味は料理。ワインのシュヴァリエ3冠王。

There is hope beyond the White Rainbow

連載 第二話

「白虹のあなたはいつも吉」

西浦みどり

こ数年来、盆栽に凝っていきす。と言つても、苦い経験をいくつも経てきました。黒松、五葉松を死なせてしまい、立派な藤の木も再び咲かせることができませんでした。とても立派な盆栽だったのに。なんとも無念、可哀相な盆栽さん、ごめんなさい。言い訳をさせていただければ、国内外の出張が頻繁で冬はまだしも、炎天下の夏にはベランダから取り込んで日陰のある環境に預けたり、盆栽クリニックにお世話になったりで、不在にするときにはそれなりに苦心を重ねました。それでも失敗すること多しで盆栽に注ぐ愛情が足りなかったのだと反省しきり。一方、成功例もあります。昨年、咲き誇った白梅の盆栽を今年の2月にも咲かせることができました。どれほど嬉しかったことか。満開咲き誇った間、言い回しはヘンですけれどまさに「愛でさせていただいた」といった気持ちにさえなりました。その一週間ほどは、毎日うきうき気分です。幸せを感じました。蕾をつけるまでの梅のご機嫌とりは結構大変なのです。過保護もいけなければ知らん

顔やわずかな手抜きもダメ。そのへんのさじ加減に心を砕きました。まるで頑なな美女に心を許して貰うための訓練？とでも言えるでしょう。か。はぐくむということの難しさをつくづく感じたわけです。大学で教鞭を執らせていただくこと早十数年。教育者のはしくれとして、盆栽を育てることと人を育てることは大いに共通するものがあると思います。筆者は、長年の海外生活や多様な貴重な経験をもとに独自に構築した論説、「歴史から考える国際関係+コミュニケーション論」を、それぞれにとつてのグローバルリーダーを意識して頑張る若者たちに説いてきました。振り返れば、その原型を授けてくださったのがフィールズ賞を受賞された数学者の広中平祐先生です。山口大学の学長でいらした広中先生から、大学を国際化したいので手伝つてと誘われました。当時、自信がなく戸惑う筆者に「独自の海外経験を話せばいい」とくどくどかれ、初講義のネーミングは？となったときに、「世界人論」と名付けてくださったのが始まりでした。以来、共通教育

課をはじめ、工学部(創成科学科)、医学部と、複数の国内外の大学で専門分野以外の国際教養として教鞭を執らせていただいています。もちろん、独自の論説にたどり着くまでには長年の取材や研究が詰まっています。あらゆる文化背景の若者たちと接する機会も相互刺激となり、学術的なこともさることながら、人とは？人間としてどうあるべきか？どうありたいかといったことも皆で考える機会を持つています。そこには、どれだけ将来に向かつて希望が持てる社会なのか、といったことに考え方が大きく左右されるのです。若者が尊敬の念を持って憧れる存在が大人社会の中にどれほどいるのでしょうか。日々の報道によると、中傷、陥れ、虚言、詐称詐取、暴力、まるで殺人さえ犯さなければやった者勝ちと言わんばかりの目に余る卑劣な行為を誤った特権意識を盾に跋扈する人々が登場しています。ハレンチなパーティも反省の色さえ見え。かつて海軍の五省はいずこに？ただただ、反面教師となってくれば...と、願うこの頃です。



にしうらみどり 広島大学客員教授、Amadeus Inc.代表取締役
東京生まれ英国育ち。コンサル会社経営と次世代教育、グローバル人材育成を両立。地域開発、企業・団体のニーズに応えるアイデア提供、国立研究開発法人役員待遇など歴任。国内外を講演活動で飛び回っている。また、93年ご成婚CNN特別番組では中継司会をつとめ全世界に報道。日本政治総合研究所理事。英国王立音楽大学グローバル日本大使。趣味は料理。ワインのシュヴァリエ3冠王。

There is hope beyond the White Rainbow

連載 第三話

「白虹のあなたはいつも吉」

西浦みどり

筆

者が大ファンのアーティストはリトルグリーモンスター。もうひとつは、

アバングヤルデイ。リトグリの完全音が織りなすハーモニーは空を飛ぶような世界へ運んでくれます。アバングヤルデイはバブリーダンスの振付師 a k a n eさん率いるグループです。いつか生アバンの舞台を観たい！伸び伸びと自分の好きなこと、恵まれた才能を他人の迷惑を恐れず思う存分発揮しているリトとアバン、彼女たちの映像を目にするたびに感動で涙があふれます。あれ？西浦はたしかオペラ歌手だったのでは？と、不思議に思う読者もいらつしやるのでは？高熱を押しつけて舞台に立ち突発性難聴に、「フィガロの結婚」が最後の舞台に。めでたく引退したのが云十年前のこと。何故めでたくかと言えば、当時の私は負けん気精神が皆無の甘ちゃんだったから。ただ、音楽教育は4歳から受けてきたのでジャンルが違っても、あらゆる歌舞音楽芸術を聴く耳、理解力はあります。リトにアバン、私が彼女たちの年齢だったころの日本社会は、差別と偏見に満ちあふれた男性目線の女性観が蔓延り、ましてセクハラ、パワハラなんていう言葉すら無かった時代。支持者の皆さまには守られましたでしたが、働く女

性に対する社会環境は整っていたとは言い難く女性の人權は軽視でした。今の日本はというと、ずいぶん進化したはず、実はまだまだ？日頃の問題意識とは別に、外国人に対しては、ニッポン素晴らしい発信者で日の丸を背負ってきた私は民間ジャパンパブリックティプロマシー推進者です。理化学研究所でダイバーシティデザイナーを拜命した時は遣り甲斐有りと腕まくりしました。多様性を重視し、特に女性研究者たちが働きやすい環境をつくり、広報する任務です。理研は、女性研究者のために託児所を設け先進的でしたが、海外からは女性支援が足りない指摘されていきました。確かに、プログラムインベステイゲーターと充分話し合えるはずの時間帯は急いで帰宅し家族のために夕飯の仕度ですから、男性研究者には有利。家庭内作業が女性に比重がかかる国ならでは。ある日、英国人若手政治家S氏に、「日本は女性専用の地下鉄車両だってあるんですよ」と自慢げに言ったところ、「えっ？そんなの酷い！なぜ、女性だけを一車両

に閉じ込めるの？男共がそこに入ればいい。女性は自由に全車両を闊歩できなくては」とバツサリ。被害を受ける側に我慢を強いるなんて理不尽。加害者になりうる男たちが不自由な思いをしろというのがS氏の論理。「では英国の痴漢対策は？」と問うと、「そんな命知らずの男はいませんよ。すぐに窓の外に投げ飛ばされてしまいますからね」と笑いながら続けたのです。ミニスカートだったから痴漢に遭って当然、自らから招いたとか、職業が風俗嬢だから性的暴行を受けても被害者とは認めないといった外見、年齢、職業による差別は許されない。あらゆる女性の人權が守られているし、偏見思想は軽蔑の対象、許されないということが徹底されていますよ。

現に、ロングヘアの私は3回も小児癌患者のためにカツラにしてみらうべく頭髪を寄付してきました。あるとき、「痴漢やセクハラが嫌なら髪も短く切ってお洒落もしなければいい」と言い放った人がいました。恥ずかしいほどの民度の違い、狂った価値観、タリバン？



にしうらみどり 広島大学客員教授、Amadeus Inc.代表取締役
東京生まれ英国育ち。コンサル会社経営と次世代教育、グローバル人材育成を両立。地域開発、企業・団体のニーズに応えるアイデア提供、国立研究開発法人役員待遇など歴任。国内外を講演活動で飛び回っている。また、93年ご成婚CNN特別番組では中継司会をつとめ全世界に報道。日本政治総合研究所理事、英国王立音楽大学グローバル日本大使。趣味は料理。ワインのシュヴァリエ3冠王。

There is hope beyond the White Rainbow

連載 最終回

「白虹のあなたはいつも吉」

西浦みどり

第一話

一話で予めご理解をお願いしました通り、本連載は全四話で完結とさせて頂く故、今回が最終回です。30代の頃、女性誌、一般紙、新聞も含め複数の連載を抱え、テレビのコメンテーターも局のはしごで走り回れたエネルギーはどこへやら。今では、シヨートエッセイ執筆にも時間がかかりすぎ。なのに読むは一瞬。それとは反対に、繰り返し読んで飽きない、都度新鮮な発見や喜びのある本で筆者が大好きな一冊が「紅楼夢」です。草木を愛でて詩を贈りあう、返歌に悩み愉しむ姿に酔いしれてしまふ美しい世界に、常に深い満足感を覚えます。中国文学の虜になり、いつか原語で読めるようになりたいとの思いから数年前より中国語を習っています。亡き親友のお陰で素晴らしい先生にも恵まれ、発音はよいと褒められるも記憶力がついてこないこの頃です。日本文学では泉鏡花がお気に入り。特に「海神別荘」は歌舞伎舞台もさることながら、映画館上映にも連日通い、号泣するのです。ストーリー事態はオンナの愚か

しさを描いているので噴飯ものですが、台詞の美しいこと、うっとりです。男と女は永遠にお互いを正しく理解することはできない、この時代を超えたメッセージが伝わってきます。「なんで泣けるの？」と、お友達は皆不思議がりますが、悲しいだけが涙の原因ではないはず。物だけでなく人の心、行為あらゆるところに美はあり、涙腺が緩みます。ドラマ「おしん」も再放送で何度も号泣。こちらは悲しく感動的。映画「カサブランカ」も何度も観るほど大好き。言うまでもなく毎回号泣。しかも、普通は愛するが故に身を引くボガードのラストシーンで涙する人がほとんどでしょう。うけれど、私は全然違ふところで毎回涙が止め処なく溢れてしまうのです。一体どこで？と首をかしげる読者も多いことでしょう。種明かし。ドイツ軍将校たちがリツクのカフェで国歌を大声で張り上げ歌い、場の雰囲気台無しにしているときに、亡命中革命家ラズ口の指揮でカフェ全体がフランス国歌マルセイエーズを高らかに歌

い、ついにドイツ軍人たちが諦め憤慨しながら出ていく。酒場に屯す娼婦までもが涙を流しながら自国の国歌を真剣に胸をはって力一杯歌っているのです。歌詞はさておきこのシーン、涙が溢れ続けます。一同の愛国心に心を打たれないほうがおかしいのではと思うのです。自国を誇りに思つて愛することはむしろ当然のことのはず。なぜ、日本ではすぐに右翼か？と揶揄するのでしょうか。日本が世界に誇れることの筆頭格といえば皇室です。日本の天皇家は、世界最古で数千年を経た最長の王朝です。女性皇族が結婚後、一般国民となるのはどう考えても合理性がない。それぞれの持ち味や才能を活かして活躍の女性皇族方ご自身が結婚後も皇族の身分を保持されるのは当然なことです。今日、複雑化された国際情勢の中ではたとえ進路を定めても何が起きるかわかりません。自国を誇りに思い、永久の継承の尊さに心を寄せることができる私たちは、恵まれているのではないのでしょうか。